

やかもち便り

編集・発行
自衛官守る会
〒532-0011
大阪市西中島6丁目
3番24号D426
発行日 2018年6月2日
題字 小笠原 理恵

五回目の請願提出が完了しました

まずはじめに、「緊急出動のある自衛官の宿舍の改善を求める請願」を第196国会に提出したことをご報告いたします。皆様のご協力とご支援に、心より感謝申し上げます。

上がりました。その設立総会に「自衛官守る会」の役員一同がお邪魔し、僭越ながら発言する貴重な機会をいただきました。

今回の紹介議員は14人（衆議院9名・参議院5名）となりました。今回はこれまで集めていただいていた宮城県隊友会などの大口の署名はなかったものの、高知県や広島県、鹿児島県、兵庫県などの自衛隊関連の団体や個人の皆さんからの署名が増えました。全体として昨年より少しだけ少ない2000人弱の署名数となりましたが、集めてくださっている核になる人や団体の数自体は増えてきたのではないかと思います。

これまでは設備や憲法改正など安全保障や装備品を中心に防衛を語ることが多かった国会ですが、自衛官の人員不足や募集が立ち行かない現状に自民党の議員の先生方が気づき、防衛費以外の予算で何かできることはないのかと模索する段階になってきたようです。

自衛官支援議連誕生

自衛官の待遇改善を考え、自衛官の流出に歯止めをかけ、応募数が増えるように現場の自衛官からも声が聴きたいと考える自民党の議員連盟「自衛官支援議連」が立ち

これも、2014年から毎年請願を続け、自民党の紹介議員の先生方を中心に議員会館を訪ね、各種防衛関連集会や議員の政策セミナーなどにお邪魔した折に自衛官の現状について説明し、陳情を繰り返したことも微力ながら推進力になったかと自負しています。

統幕長訪問と

防衛関連諸団体との連携

防衛協会や関西防衛を支える会などの防

衛関連諸団体に会員として参加するだけでなく、2018年3月2日には防衛省で統幕僚長の河野克俊様を表敬訪問いたしました。この表敬訪問に際して

は、紹介議員でもあり、防災のエキスパートで自衛官の待遇改善にも理解の深い衆議院の谷公一議員が今年度もまた橋渡しをしてくださりました。統幕僚長にお会いして、私ども自衛官ではない民間人



や国会議員が自衛官の待遇を何とか良くしたいと願っていることを直接お伝えできたかと思えます。制度や規則に文句を言わず淡々と任務を遂行する自衛官に代わって、外側から見ている私たちができることもありません。待つていてください。少しずつでも変えようと頑張っているのですという気持ちが多く、自衛官に伝わってくればと思います。

雑誌への寄稿

周辺諸国の脅威が高まる中で、自衛官の人員不足で防衛に穴があく危険を察知した雑誌社や新聞社なども増えてきました。自衛官を取り巻く現状がこのままではいけない、防衛予算はせめて2倍にしなくては

けないという気持ちを持つ雑誌「週刊SPA!」のWEB版「日刊SPA!」や産経新聞社が発行する「正論」誌に記事を寄稿していますが、さらに自衛官の現状を広く社会に伝え、制度の改革のために声を上げていこうと考えています。

特に「日刊SPA!」には隔週で「自衛官ができないこと」シリーズを掲載、ほぼ1年近くの連載となっております。さらに連載は続く予定です。

オリジナルピンバッジ

今年度はオリジナルピンバッジ（正会員用）に続き、サポーターピンバッジを作りました。銀色のシックで上品なデザインが好評です。こちらは会員でなくても注文可能で、1個900円となっております。署名を集めていただいた方や賛助会員さんには改めてご案内しますので、必要な方はぜひご注文ください。こちらの正会員ピンバッジは制作元の（株）キラメック様にデザインが評価されて紹介記事を書いてもりました。



さらに衆議院議員会館内の食堂でのピンバッジコレクションにも参加しています。

なお、「自衛官守る会」では、会を寄付で支えてくださる賛助会員を随時募集しています。さらに賛助会員の中で自衛官の待遇を改善するために具体的に動いてくれる

準正会員さんがいれば、一緒に活動をお願いしています。希望される方があればぜひ、当会のお問合せメールアドレスまでご一報ください。 seigan@neptune.nifty.jp

署名は来年1月末日締め切り

当会は来年1月末日締め切りとし、これまでと同じ署名用紙・同じ文言で引き続き署名を集めます。なぜ、文言を変えないのかと質問されることがありますが、国会では継続が力です。同じ文言をずっと毎年出し続けることで、その本気度を安全保障委員会などに積み重ねているのです。同じ文言が国会の記録に残ることが国会への力になるのです。

署名についての注意点を願う

衆議院と参議院では署名は別集計になります。そのため、同一人物が衆議院と参議院にそれぞれ1つずつの署名を送ることができません。おひとりですべての署名を書いていただくのは大変なのですが、それだけで2倍の署名数が手に入るようになります。署名を集めてくださる皆様は大変お手数ですが、「1人2枚ずつ」、衆議院と参議院の分を分けて集めていただければ幸いです。

また国会の請願課のチェックは当然ながら大変厳しいものです。筆跡が全く同じものが複数ある場合は弾かれてしまいます。例えば同じご家庭内でご家族の署名を書いていた場合でも、代筆ではなく、

各々ご自分で署名を記入していただくように徹底をお願いします。

なお、障害等で署名を直筆で記入できない方については、その方が印鑑を捺印できる場合は代筆が認められています。どうぞご協力をお願いいたします。お子様でも外国人の方でも日本に在住の方であれば署名可能です。私たちの友人の米軍関係者の方も自衛官の待遇が良くなるようにと賛成して署名をしてくださっています。

請願内容

<http://yakamochi.org/seigan>

html

署名用紙のダウンロード

<http://yakamochi.org/>

newsletter/20149namorukai.pdf



署名送付先

「自衛官守る会」事務局

〒5320011

大阪市淀川区西中島 6丁目3番24号

D 4 2 6

*

波濤をこえて 第二回

正会員 星山 良一 (元海上自衛官)



「警声(おうせい)凍る風解けて」

入校式が終わり、その日までの五日間のお客様気分を吹き飛ばす嵐のような新入生歓迎体力・耐力? 錬成が始まった。例えば、部屋に入る要領がなつとらんとしたこと、腕立て伏せ三十回とか五十回やれとされるのだ。部屋にいる上級生・とは言っても、先週まで一年生だった新二年生

《会のボランティアを募集します》
賛助会員の皆さんの中で、私たちの会の正会員とともに会の運営や業務にお付き合いいただける方を準正会員として募集します。1年間一緒に会の業務をやつてもらつて、お互いに続けていきたいなと思つた段階で正会員に推薦します。

「自衛官守る会」の活動では普段なかなか行けない場所にも行きますし、議員の先生方とお話しする機会も多いです。基本的には会報を三つ折りする封入作業や請願の署名簿の集計、署名集めのお手伝いなどの作業がほとんどですが、今年には議員の先生と直接お話をする会を持つとと考えていますので、さらに活動の幅が広くなりそうです。関西と関東のどちらかでお仕事を手伝つてくれる方、ぜひメールでお知らせください。個別にご連絡し、お手伝いしやすい業務から一緒に始めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

ないと、言われるのだ。「えつ、軍人・・・なの?」という疑問がわくものの、ひいひい言いながらやるうちに、そんなことは忘却の彼方だ。新一年生にとつて、自分の部屋以外へお使いで行くということは、体力錬成をするということと同義語であった。

大抵の場合は三十回から五十回、上級生の機嫌が悪い時は百回の腕立て伏せというものがあった。ある時、優しいと評判の部屋長(四年生)の部屋へお使いに行くことになった。緊張して部屋に入ると、案の定、入室要領が悪いという指摘を受け、「腕立て伏せ十回やね。」との指示を受ける。「えつ、十回ですか?」と、思わず聞き返した。「ああ、十回でええんやで。」まるで、地獄で仏様に出会つたようなものだ。さつそく腕立て伏せの姿勢を取り、「いち、に、さん・・・」と数えながら余裕をかましていると、「きゅう、じゅ・・・」と言つたところで、「じゅう、ちやう。きゅうてんいち、やで。」と、仏様がおつしやるではないか。関西弁の仏様なんているんだ、と思いつつ「??」という顔をしていると、「九、一、次は九、二でんがな。」と。ようやく飲み込めた私、「十回増えただけじゃん」(入校早々に鹿兒島弁を矯正され、何かにつけ、じゃん・じゃん言うような体にされてしまつた。)と、気を取り直して一気に加速、「きゅうてんきゅう、じゅ・・・」と終わろうとする時、「ちやうちやう、きゅうてんきゅういち、や。」・・・あの関西弁特有の「きゅうてん、きゅういち」というイントネーションである。関西人というか、関西弁をしゃべる人間

に殺意を抱くようになったのは、この時からである。鹿児島弁とかの方言は矯正するくせに、関西弁が野放しなのは、法の下の平等に反するではないか。

そんなことを考えつつ、小点数以下五桁になった時、さすがにこのままではヤバイ

と思った。銀河鉄道だって九は三個しかないと、「きゅうてん、きゅうきゅうきゅうきゅうきゅう」が永遠に続きそうなのだ。「9・99995」になったところで、「し、四捨五入お願いします！」と、思わず叫んだところで大爆笑され、終わらないうちに、真の武士たれ」という教

幼い頃、近所にお住まいだった元陸上

あります。たとえば、「自衛官は日常の

自衛官の方に事あるごとに何度もお話を聞かせてもらったことがあります。自衛

業務（訓練も含む）でも常に危険にさらされているわけであり、それに対するご

隊のカレンダー、戦車や戦闘機の模型、同僚の皆様との写真の数々、訓練での笑

家族の理解と覚悟も同時になければいけない」と聞けば、今までは違う子育て

話。お話を聞くたびに楽しくて、ワクワク

体制や家族の生活環境の安定が必要だと痛感します。官舎などの生活環境整備が

変いきいきされていたのを思い出します。「お仕事を終えてもこんなに胸を張っ

た、職種によっては訓練の特性上、ご家族に日程さえ教えることができず家族が

て、きつと素晴らしい仕事なんだろ

離別するような悲しい決断をしなければいりません。引き続きのご指導よろしくお

うなあ」と、一種憧れにも似た思い

願ひ申し上げます。

をもっていたことも事実です。私の人生

族に日程さえ教えることができず家族が

の選択肢から「自衛官」の3文字がずつ

離別するような悲しい決断をしなければいりません。引き続きのご指導よろしくお

と消えなかつたのは、もしかしたら気持ち

ならない実態があると聞けば、職務に専

ちの中ではありますがその思いが未だ消

心したが故の厳しい現実を社会全体があ

えていないのは、こんな幼い頃の記憶が

まりに知らないことに虚しささえ感じま

あるからかもしれません。

す。

自衛官は国を護る 私は彼らの誇りを守る

使命感に少しでも応えるように、私たちは自衛官の誇りと関係者の心を守っていくべきでありま



自由民主党衆議院議員
プロフィール
宮川 典子
文部科学大臣政務官、松下政経塾時代に各駐屯地に赴き自衛隊研修に励む、自衛官支援議員連盟に発起人として参加。

えが、ここにも生きています。のかどうか、「知らんがな」である。

入校当初は三十回くらいが限界だったが、運動部で鍛えられると、百回くらいは軽くこなせるようになる。新入生は運動系・いわゆる体育会系のクラブに強制的に入らされるのだが、その目的は腕立て伏せをやらせるためだと合点がいった（プラスバンド部も運動会系のクラブとされている）。授業の終わった四時ころからクラブ活動があり、それが終わる十八時過ぎから十九時までの間に入浴、夕食を済ませ、上級生のベッドメイキングまでしなければならぬ。十九時から学生舎の清掃があつて、これに遅れたら体力錬成が待っている。その他各種作業で一年生は大忙しであり、夜には廊下で市街地戦が繰り広げられる。当然のことながら、いくら若いとはいえ身体はくたくたになり、入校前に見たパンフレットどおりなら、にこやかに談笑しているはずの学生舎生活も緊張と腕立ての連続となれば、休めるのは授業中しかないのは自然の摂理である。こうして防大生は、授業中に居眠りするという特技を身に付けるようになるのだ。中には居眠りというよりも、最初から最後まで完全に熟睡する猛者もいた。給与を貰いながら寝るとは何事だと怒る先生もいれば、キミたちも大変だね〜と、同情的な先生もいた。

こうして一年生の時はあつという間に流れ、専攻と要員選択の時期を迎える。一年生の間は理系、文系それぞれ共通学科で、二年生進級時に希望や成績を考慮して電気工学、

機械工学、土木、化学などの専攻に振り分けられ、同時に陸海空の要員選別も行われる。我々の時は空自への希望者が多く、次に海自という順番だった。私は、ホーンブルワーシリーズ（帆船時代の英国海軍船乗り物語）を高校時代に読んでいたこともあり、軍艦の艦長になりたかったので海自志望である。専攻は、伝統的に海上要員の

精鋭が集まるという機械工学（訓練と専攻併せて海上八班と呼ばれていた。下級生からは海賊八班と恐れられる、海の精鋭連中という印象だった。）を希望した。幸いなことに、希望どおり要員・専攻区分され、二年生になるのを待ち焦がれる日々となる。

時代に柔軟に対応する

竹本 三保（元海上自衛官）



（つづく）

自衛官の待遇改善の観点から、女性自衛官であった自身の経験を振り返ってみると、現在から思うととても考えられない待遇であったと思いますが、当時はそれが現実であり、その中で生きざるを得なかったのも事実です。

時代の変遷の中で、改善されたものも多々あると思いますが、さらに勤務環境を整えて、現職自衛官には任務にまい進してもらいたいものだと思います。
勤務環境、官舎等の状況

昭和49年に女性自衛官制度（当時は婦人自衛官制度）はできたものの、部隊によっては、女性を受け入れる体制が全くないところもあったと思います。

昭和57年、市ヶ谷の部隊で勤務した時は、女性用のトイレは別の建物にしかなく、私は時間があったくないので男性用トイレを使用していました。男性の方が嫌だったかもしれませんね。

平成5年、当時六本木にあった防衛省海上幕僚監部に異動になった時、女性用更衣室はありませんでした。女子トイレの中に、箆の子を敷いてカーテンで囲って、順番に着替えていました。最も男性の更衣室もあります。着替えていたから、男性はロッカーの陰で着替えていました。

当時は、託児所なんて夢のまた夢でした。親の支援を得ながら、という環境が整った人は勤務を続けることができたが、支援が得られずやむなく退職した人も多かったです。

官舎については、東京に引っ越した時には、仕事と子育てを両立するための官舎はありませんでした。ピンポイントで賃貸マンション（月15万円）を探し、生活の便利さを最優先にしました。

勤務時間に関すること

私は学校長として勤務して初めて、三六協定を知りました。法定労働時間は、1週

間で40時間、1日8時間までですが、その労働時間を延長させる労使協定を三六協定と呼んでいます。

そもそも自衛隊には、労働組合もなければ、労使交渉もありません。「自衛官は24時間勤務だから」と言われ、真に受けて頑張ってきたのが実態です。

現に、1年間休暇ゼロという年が、33年間の勤務の中で4年間もあります。

22回転勤した中で、どこの勤務が一番残業が多かったのだろうか、改めて調べてみますと、まだ一等海尉で自衛艦隊司令部通信電子班勤務の時で、1か月156時間でした。なぜ156時間にもなるのかというと、月6回の当直（明けなし）と平均月2回の土日の出張があったからです。過労死ラインを軽く超えています。使命感に燃えていたのでクリアできたのだと思います。ただ、事実として流産や手術を経験しました。

仕事が終わって、7時過ぎに帰ろうかと思いついて、「お先に失礼します」と言うと、「もう帰るのか？」と上司から言われました。また、「代休は制度としてあるが、取れる状況か？」と上司から言われ、あえなく断念しました。あの当時、これも修行だと考えていたのでしょう。それくらい、任務にまい進していたのだと思います。

現在の状況と課題

全国的に働き方改革が叫ばれる中、隊員の休養日を確保するのは大変だと思いま

す。自衛隊は緊急に招集される仕事ですから、杓子定規に代休を取らせるのも難しいでしょう。また艦艇等の航海中の勤務時間をどのようにカウントするのもかなり難しいと思います。

官舎や職場環境は徐々に改善されていると聞きますが、託児所については、現任いくつかの拠点にしかないのが、全国展開をさらに進めていってもらいたいと思います。次代を担う子供たちを育てることは、国のために大切なことです。特に、緊急招集時に力を発揮することと思います。

私が最も課題だと思っているのは、新入隊員確保のための急激な女子隊員の増員と無制限の配置の拡大です。私は以前、自衛隊で女性を活用する理念として「男女区別平等論」を提唱し、平成5年の職域開放の後押しに役立ったと自負しています。当時は、女性の活躍を促す理念が必要だったのです。しかし、今や、戦闘機に搭乗させるとか、潜水艦に乗艦させるといったのは、「母性保護の観点」、「経済的効率性」等の観点を十分に考慮すべきではないかと思えます。

編集後記

早いもので「やかもち便り」も四号となりました。今回は全国の皆様のご協力と紹介議員の先生方のお力添えで、嬉しいご報告ができたことを、噛みしめながら編集いたしました。（編集部 石田）